会議の概要（議事録）

<table>
<tr><td>会議の名称</td><td>（番号）
1−４９</td><td colspan="3">墨田区基本構想審議会　第３部会（第３回）</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">令和６年９月２７日（金）　１９：００から２１：００まで</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="4">すみだリバーサイドホール　イベントホール</td></tr>
<tr><td>出席者数</td><td colspan="4">【委員】上野武（部会長）、金谷直政、岸成行、木村優太、佐藤祥子、杉山達雄、須藤正、真鍋文朗、山本俊哉（計９名）
【事務局】楠政策担当課長、政策担当主査（田部井）</td></tr>
<tr><td>会議の公開
（傍聴）</td><td colspan="2">公開(傍聴できる)　部分公開(部分傍聴できる)
非公開(傍聴できない)</td><td>傍聴者数</td><td>１人</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="4">１．景観・水辺の活用、環境について</td></tr>
<tr><td>配付資料</td><td colspan="4">１．地域活動、防災・防犯分野における未来予想図（案）
２．基本構想検討シート
３．委員アンケート（第１回部会資料抜粋）</td></tr>
<tr><td>会議概要</td><td colspan="4">１　特別講演
今井悠介氏による「子どもの体験格差」に関する講演を行った。

２　事務局からの伝達事項
事務局より本日のテーマ及び資料２について説明を行った。

３　前回の振り返り
事務局から、資料１について説明を行った。

（木村委員）
感想としては完璧すぎて素晴らしいなと。こうやって出ていくんだっていう感想。議論をすごく綺麗にまとめていただいて、自分の言いたかったところもちゃんと反映されている中で、もう 1 回反芻してみてこれでいいのかなって考えたときに、若干のニュアンスだが、墨田区って閉鎖的なイメージがある。既存のものづくりを重視しすぎて、新しい人たちをあまり注目してないみたいな、オープンさが何か足りていないような気がしていて、今後 10 年間の中では新しい人たちがどんどん入ってきているという中で、オープンになろうみたいな、そういうニュアンスを入れられないかなっていうのはちょっと感じた。多分まとめ方としては完璧なので、完璧な上でちょっと反芻してみてという感じの意見である。</td></tr>
</table>

	（上野部会長） 　確かにそういうふうに言われると既存のコミュニティの中でこういうのはすごく腑に落ちるけど、新しい人にとってはどうかということかと思う。他はどうか。 （山本委員） 　こういうものをまとめるのってなかなか大変だと思う。でもこれから基本構想ですみだらしい事をやっぱり出していかなくてはならない。一方では原理原則っていうことをちゃんと出していくのが大事だと思う。ただ、大学で教育をやっているとどうしてもこういうところに対してもうちょっとワードを工夫された方がいいのかなということと、この間のかなり濃密なすごくいい意見がたくさん出たが、こういう形でまとめるとそれらが詐称されちゃうというのがある。ワードのとり方だが、どこでもあるような形にとられちゃうのはすごく残念だなというふうに思う。この間の議論の中の大きなテーマが一つは上の方でもあったが、コミュニティを重ねていくということ。分野を重ねるっていうことがとても重要で、１人１人がやることっていうのはすごく限られていて、でもやっぱり防災と福祉を重ねるであったりとか、学校と趣味を重ねるであったりとか、そうなってくると繋がりを作るとかっていうのは、ある面当たり前だが、繋がりを重ねていくとか、次の一歩を踏み出していくときには、墨田区のそれぞれの分野で縦割りのものを崩すような形でいい形でやっているので、それを重ねていくっていうことをもっと全面的に出した方がいいのではないか。 　もう一つはみんなで守るっていうことでとってもいいが、一丸となるのはなかなか難しいと思う。こないだ議論を行った、地域のエリアの価値を高めていく。墨田区と一口に言ってもやっぱり多様である。北と南で違ってくるところもあれば、それぞれの街でやっぱり徒歩圏内でもそれぞれカラーがあって、この取組っていうものがそれぞれ共鳴していきながらという形で、やっぱりどうしても、こういうコミュニティ地域活動、防災防犯っていうところになってくると、人とかが前面に出てくると思うが、今日この後の議論で出てくる景観っていうのは、そこでの暮らし方っていうものが全部出てくる。そういうのが墨田区一様ではなくて、やっぱりそれぞれキャラクターが立っているというようなことをここにも盛り込んでほしいと感じた。みんなで守るっていうところの頭のところでは、私の方で申し上げた、正しく防災への理解を深める、これがとても重要だというふうに思うが、もしかしたらここの部分と、それからやっぱり障害の有無や、偏見などの文章もあるので、少しここの、いわゆるソフトの精神的なものっていうところを置いておいて、もう一つはこの表れ、特に地域のまとまり、やっぱりこの後も議論があるかもしれないが、フラットなところでもありながら、いろいろな多様なものがあって、そういうことをぜひ墨田区でまとめてほしいなというふうに期待を込めて思った。 （金谷委員） 　前回欠席してしまい申し訳なかったが、かなり活発なやり取りがあったということで、前回出られなくて残念でならない。ぱっとこのまとめていただいた状態だけ見させていただいて木村さんがおっしゃるように、すごく綺麗にまとまっている感じはするが、ずっと流れすぎてあんまり止まらないような感じがして、どの言葉も

	どこの地域でもあるような、そんな感じがちょっとする。 　墨田区らしさっていうのはかなり都心に近くて都市化が進んでいるが、気軽に人が話しかけるとか、それは南部も北部も、そういった文化ってあるんじゃないのかなと思っている。両国あたりなんかでも結構やはり気軽に人が声掛け合ったりとか、北部も声掛け合ったりとか。それが防犯防災にどう繋がるのかと言うと、例えばいろいろリフォーム詐欺とかそういったことも気軽に何か声をかけるところから始まる。声かけて挨拶するっていうのは、情緒がある人情があるって見方もあるが、聞くところによると声をかけて相手がどういう人なのかっていうのを見るとか、親しげに話すっていうことが、境を取って仲良くなるってことがあるが、その辺の言葉というよりは、何か行動とか街の中で見られるような所作というか、何かそういったものの中に何かいろんなことが隠れているようなことってあるんじゃないのかと思う。 　だからそのすみだらしさの行動とか話しかけやすいとか、誰でも声掛け合うとか、何かそういう基本的な簡単な行動の中に、いろんな防災とか犯罪とか防ぐヒントがあるんじゃないのかなと思うが、例えば思いやりとか、尊重とか、穏やかっていうと、具体的にはどういう行動なのかなってのはちょっと行動に移しづらいなっていう気はあるが、話しかけてみようよとか、一方でも話しかけちゃいけないよっていうのも、うちの子どもも学校で言われていて難しいんですけども、その辺は逆に話しかけてくれ、話しかけないでくれってことで難しいとは思うのですけども、だけどもその辺って、やっぱり残っていってほしいなっていうのもあるし、話しかけることで、親しくなることで、新たな犯罪っていうのはもちろんあるんですけども、そこも重々承知しながら、やっぱりコミュニケーションを取りやすいってことがいろいろな防犯とかに繋がるのではないのかなっていう気はする。 （木村委員） 　人情という言葉がこの中に足りないなと思った。墨田区だから何か人情 2.0 じゃないが、人情は今まで古い人たちがっていう感じだったが、人情 2.0 ではもっとオープンでみたいな、そんなイメージだとちょっと止まりそうだなって感じがする。 （上野部会長） 　下町人情はよく出てくる。それとはまたちょっと違う感じか。 （金谷委員） 　人情だけだとちょっとまたかみたいなところがあるが、その人情 2.0 とか、何か墨田区らしさっていう心に残るようなものが欲しいなという気がする。 （真鍋委員） 　すごく綺麗にまとまっていて流れるが、引っかかりがないからちょっとインパクトに欠けるかなと。なんかもっとインパクトがあるワードが入るといいのではないかと区民目線で思う。

	３　審議 （１）景観・水辺の活用について （木村委員） 　水辺と言っても、隅田川の方のイメージと荒川の方のイメージだと全然違う。荒川の方はいわゆる金八先生などというようなところで、河川敷も広くてグラウンドもあってというイメージだが、隅田川の方はカミソリ堤防があって、川も見えないみたいな。ちょっとしたテラスはあるが、ジョギングする人ぐらいしか行けない。どっちの水辺なのかなと。隅田川は防災のイメージが強いので、荒川の方のイメージでいくと何か雑草が生えているようなイメージがあるので、あまり活用できてないなっていうのは思う。例えば健康促進とか、福利厚生とか、区民の幸せとか健康とかに生かせるような水と緑のまちづくりができたらいいなと思う。 （真鍋委員） 　墨田区の景観は美しい。ミズマチであったり、隅田川やスカイツリーがあったり、そういうリソースがすごく優れているので、まずは維持してほしい。それが次世代の子どもたちにも伝わり、残ることを願う。あとは、そういう景観がいろんな人が交流を持てる場になると嬉しい。その美しい景観をきっかけにどの世代の人たちも何か自然に集まってゆるやかなコミュニティを作って交流の場になってほしいと思う。 （杉山委員） 　水辺の活用ということだが、墨田区に住んでいて非常にいいなと思うのは、川があると必ず歩道をつけている。他の区ではなかなかそういったことは見られない。 　長年、本所保健衛生協力員の会長をやらせていただいているが、健康問題に関しては墨田区が 23 区の中で正直言って下から数えた方が早い。寿命にしろ、がんにしろ、非常に力を入れているが、23 区の下から 3 番目ぐらいのところにずっといるような状況であって、それを何としても 1 ランクでも上げたいなというのがある。このため川の歩道を、皆さんが歩くのに活用していただければ最高だと思う。いわゆる人生 100 年時代、川の歩道を活用するのが一番じゃないかと思う。 　お隣の台東区は川があったが、実はそういうところを暗渠にしてしまっている。墨田区の場合は暗渠に対して皆さん反対してその景観が今までずっと残っている。それがいわゆる癒しなどの効果になっているなという感じを持っている。これをずっと残してもらえればと思う。 （須藤委員） 　前回休んで申し訳ない。水辺の活用について、うちのすぐそばに曳舟川というのがあったが、それが約 70 年ぐらい前に埋められてしまった。昔はそこに欄干がない橋が架かっていて、花火大会のときには、そこにみんな集まって両国の花火を見ていた。 　今、水辺の景観とかいうのを考えると、子どもが夏になると親水公園の水に入って遊んでいる。お子さんが安心して遊べるような場所が限られていると感じる。今

	は隅田公園でひょうたん池を改良している。ミズマチができて、そばにひょうたん池があって、それを改良しているのだから、そこで子どもが遊べて桜が咲くようになると最高に綺麗な場所になると思う。 　それと中川は最高に綺麗になった。ああいうイメージをなぜ他でやらないのかなと思う。例えばお年寄りがどこにも行くところがなくても、あそこに行けば自分の気持ちもよくなるし素晴らしい景色の中でのんびりとできる。お年寄りも行けるし、子どもも遊べるような公園や水辺を作った方がいいのではないかと思う。 　それから隅田公園はだんだん使いにくくなっている。高速道路ができたおかげですごく景観が悪くなっている。そういう意味ではもう少し景観をよくしてもらいたいと感じている。 （上野部会長） 　23 区の中で一番水辺空間の距離が長いなどは言えないか。 （事務局） 　確認し、次回報告させていただく。 （岸委員） 　まさに今お話があった水辺とその面積の関係だが、墨田区は東京都の中の島国だと思っている。非常にある意味ローカルな部分や考え方に固執する部分もある。割と排他的なところもある。そういうのが、もしかしたらすみだらしさと密接に繋がっているのかなというのが今感じたところ。 　それからもう一つは景観について。北斎通りまちづくりの会というのは景観まちづくりに取組む団体として認定を受けているため、景観って何ですかってよく聞かれる。桜が見える風景、富士山が見える風景とかではなくて、一緒に暮らしている毎日の生活、例えばゴミ出しとか、あるいは子どもたちが学校に集団登校で行くとか、そういう普通の暮らしの中に見えてくる風景と言うか、それが景観なんですよって話をする。 　景観まちづくりって何だと言って、軒を揃えるとか、ビルの高さを揃えるとか、グレーの壁面で色を揃えるとか、そういうことではなくて、もっと自由に考えて暮らしの延長みたいなところで、身近な景観って変な言い方ですけども、そういうのにもっと皆さんが目覚めて意識を持ってくださるように、そして景観ってものすごく暮らしを包み込むようなところがあって、それはコミュニティの問題とか、防災とか防犯とか、ものすごくいろいろな絡みとソフトに繋がって重なっている。 　だからそういう意味では、景観というと都市計画の分野があって、そういうふうな繋がりでお話しすることも多いですけど、もっとこう普段の暮らしに密接に関わり合うものだとそんな目で見ていただいた方が何か美しい風景を見るという景観よりはいいのではないかという気がする。 （金谷委員） 　先ほど曳舟川の話が出た。昔、昭和 3 年生まれくらいの上司がいて、その上司のお兄さんが曳舟川は汚かったけども昔泳いでいたと言っていた。水辺が結構生活に

	密接にあったように思う。 　あと京成曳舟駅からキラキラ橘銀座に行く、くねくねとしたが道あるが、そこは昔、用水路があって、だんだん住宅が建ってきて、どぶ川みたいになってきて、今でも 80 歳ぐらいの人たちが、昔どぶ川に落ちたとかそういう話されていて、どぶ川になる前はもうちょっと綺麗だったと思うが、結構生活の中に水辺があったみたいである。 　荒川とか隅田川になると国が関わってくるため難しいと思うが、かなり綺麗で長い距離を信号もなしで歩けるし、自転車もないし、ジョギングもできるし、僕も気に入っている散歩エリアだが、それはそれとしてもちろんあるが、その内側の部分の水辺とか緑とか、そういったもので水辺のある空間っていうのを新しく作っていくのはどうか。例えば親水公園なんかは 1 回運河を埋めたが、水辺を再生して、また歩けるようにした。 　北の方では曳舟川通りなんかも、今は暗渠になっていると思うが、何とか小梅通りと曳舟川通りのどっちかをもう少し再生できないのかなとか、その昔の水辺空間を再生して新たな景観ってできないのかなって思う。 　その景観っていうと、よく観光客が 1 枚の写真を見てここはどこだって探して来るっていうのがあって、インスタ映えって言うと薄っぺらい言葉に見えるのかもしれないが、ここで写真撮ってみたいよっていう場所を作れるかどうかっていうことなんじゃないかと思う。例えば家が建ち並んだところに水辺空間があって、子どもたちが遊べるような環境があると、もう写真撮りたくなるだろうし、行ってみたいって多分思うのだろうし、水辺があって緑があって、インスタに撮りたくなるような空間というか、何かそんな場所が再生できればと思う。 　あとは京島のまちづくり協議会でやっていたのは防災が始まりだが、自前の井戸を作ろうって言って、ただ井戸だけ作っても日常ではほとんど役に立たないので、その井戸を子どもたちが遊び場として使えるような計画として、その井戸を汲んで、小川みたいところに流して船を浮かべるとか、そういう小川遊びみたいなのもできるように、最初はそういう計画だった。土地もお金も限られているので、ちょっとそこまではいかなかったが、水を確保して、いざというときには防災に使うけども、日頃は子どもたちの遊び場とか、写真映えするような水辺の空間を作るとか、そういったことが防災も緑、水辺っていうのも全部繋がって、一緒に立ち上がってくるようなものができるのが、なんかすみだらしいんじゃないのかなっていうふうに思う。 （佐藤委員） 　墨田区においてやはり水辺というふうに表現すると隅田川であったり、荒川であったり、比較的大きい河川を指しているのだろうなと思っている。観光資源としての水辺という表現で、それはある程度確立されているものだと思うが、生活環境に近い水辺、私は菊川に居住しますのでやはり大横川であったり、そういった小さい川に愛着を感じるような環境、現状、桜が植えてあったり遊歩道があったりするが、それにプラスアルファ安心感を伴う何か工夫はあればいいなということを感じる。 　自然環境が何となく感じられるようなところというのは、どうしても野鳥であったり、場合によってはウミネコがやってきたりとか、そういった問題も生じてくる

	と思うので、そういったことも考慮しながら、整備していく必要があるのかなということを感じている。 （山本委員） 主に2点、お話しする。 資料3で、委員の皆さんからいい意見を言ってもらっている。一つはやっぱり景観といったときに、すみだがその気負った景観をつくっていくということではないということ。それから混在しているというところが町の活力になっていると思う。 どうしても、我々はハードとソフトでわけてしまう。景観っていうと、なんかしつらえの方ばっかりだが、すごく大事なのは、そこでの振る舞いであったり、特にすみだの場合には、工場がどんどんマンションになっていったりとか、お店が戸建ての住宅に変わっていっちゃったり、やはり普段の暮らしが何か見えるようなまちというのがある。 一方では、防災・防犯というところから、ガードを固めるというところもある中で、先ほど挨拶の話があった。やっぱり外に出て、それから外からも普段の暮らしがやっぱり見えてくる。多分観光の方でもいろんな話があると思うが、先ほどもウォーカブルの話があったとおり、やっぱり街を歩いていて非常に面白い。景観のハードルをもう少し小さくしていく。また一方で、景観計画っていうのがくっついてくる。何か色を合わせるっていうことよりも、あまり派手な色で色彩公害になるっていうのは、ちょっとそれは問題だが、むしろいろんな色が交じり合っていて、それが共鳴しているというような、何かそういう今後の景観政策や、商店街の中で普通の住宅ができちゃうということではなくて、何か誘導していけるような、やっぱりグラウンドレベルが活性化していくような、喫茶ランドリーなんていうのもすみだの取組でもあった。それがひとつ。 あと一つ、資料3のところで、路地園芸と、それから公園の農園化というようなことをキーワードとして出した。やっぱりすみだの場合は土地柄、いわゆる緑地は少ないが、その一方で、小さなプライベートの緑っていうのは外側に溢れ出ていて、それが一つの大きな魅力になっている。むしろポジティブに捉えていくこと。 一方でパリのように、公園もどんどん農園にしていくであったりとか、そこまではいかなくてもいいと思うが、多聞寺の農園であったりとか、先ほどの雨水の関係からすると、街中農園としての向島有季園を作ったりとか、またそれが子どもたちの教育の場所にもなっている。学校の中でも農園を作るなど、むしろ農というようなことを、すみだらしく全面的に出していった方がいい。そういう面では緑っていう言葉で簡単にするのではなく、何とか緑とか、ちょっと語呂を考える必要があるが、それこそ育てていくであったり、見せるであったりなどをしていく。そういうことが10年後の姿の方で、もう少しこれが次のステップに行けるようになっていくといいかなというふうに思う。 （上野部会長） 園芸や農園の話があった。千葉大学の園芸学部があずま百樹園に関わっていたりとか、公園の整備にランドスケープの先生がかつて関わっていたりとかしていたので、ぜひその辺もやれると面白いなと思う。最近はエディブルガーデンと言って、

	食べられる小さな木を並べて、その道を全部食べられる景観にしようなんていうこともやっていたりするため、何かそんなこともつながるかと思う。 　景観は生活と密接に関わるというあたり、小さな水辺をもう1回見直すこともあるかと思う。韓国のソウルでは清渓川という暗渠になっていた川を、上に通っていた高速道路を全部剥がして公園にし、世界的にも何かすごく有名な都市計画の事例になったが、そこまで大きくしなくても身近なところでいろいろとできるといいなと思う。 　景観と水辺活用については35分ぐらい経ってしまったので次のテーマに移りたいと思う。次は環境について。 （２）環境について （山本委員） 　大きな話からすると脱炭素をやっていく必要がある。それは建築活動のところでいうとどうするかとか、いろいろあるが、主にすみだらしいという形で二つ話題を提供したい。 　一つはやっぱり先ほどの雨水。どちらかというと公衆衛生の問題で、水が逆流しちゃって、水害の問題っていうとこからスタートしたが、それが今年で30周年ということで、今やすみだというと雨水というくらいに、もう世界的にも有名になってきている。だからそれが天水樽で溜めるであったり、それから銭湯の文化であったりとかっていうところだけではなくて、千葉大の方でも京島の雨水を浸透させるであったりとか、要は地面がどんどんアスファルト化してきているところを、むしろ雨水を文化として残していって、基本構想の中では、10 年後、その先を見据えたところで、雨水の文化をもっとどんどん育てていく、いろんな取り組みが多分あるというふうに思う。それを一つ掲げてほしいと思う。 　二つ目は、フラットな地形だというところ。今日は雨だが、皆さん区役所には自転車で来たりする。それをプラスに持っていく一方で、さらに高齢化も進んでいくということからすると、この南北を繋げていくコミュニティバスっていうのが大きな力になってくるのかなというところを後押しするような形で、やっぱりできるだけ車に頼らないというようなことを、ポジティブな将来の姿として、もっともっと打ち出してもいいのかなというふうに思う。 （佐藤委員） 　環境問題で気候に関しては、もうここ数年、非常に異常なほどの暑さが出ているが、これをそう簡単に変えることはとても難しい話だと思うため、まずは対策として、今年からだったか、薬局とかそういった公共施設で避難所的な使われ方を開始された。そういった場をより増やしていくことで、そういうところにまた立ち寄っていただいて、使っていただくということで、コミュニティのコミュニケーションが増えていくと思うので、そういった場所を増やしていく取組ということは努力していく必要があるのかなと思う。

	（金谷委員） 　環境ってすごく広い話で、宇宙環境とか教育環境とか言うが、多分熱とかエネルギーとか、そういったことの環境ってことかなとは思う。しかし、そこでもいろんな環境があって、多分精神的なことで言えば熱のことであるとか、発電のことであるとかそういったことになって、多分墨田区一つで解決できる問題ではないのかなということで、やはり山本委員のおっしゃった雨水っていうのが、墨田区らしい環境のテーマなのかなとは思う。ただ、雨水の中に、実はいろんな問題が入っていて、その始まりは、都市水害っていうのが、昭和40年ぐらいか50年ぐらいのときに、墨田区は最初にそういったものに遭遇して、保健所の方が何とかしようということで、溜めようというところから始まった。だから水害対策で溜めようってとこからやっていて、実はその溜めた後のことまではあまり考えていなかったような感じで、それがずっと続いてはいるのだけれども、こう言っちゃ失礼なのかもしれないが、真剣に区はそれを考えているのか、それともそのときで止まっているのかっていうのはちょっと気になる。あとは墨田区だけじゃなくて東京都の下水道局とかはそれをどう思っているのかというのが気になっている。 　私が会長をやっている町会の会館を去年建てて、そこに雨水タンクをつけた。ちょっと今までと違った雨水タンクで、雨水をトイレの洗浄水に使うことで、溜めておくだけじゃなくて使うということで考えてみて、それで下水道局に相談に行った。そうすると厳密に言うと雨水を使うことにより下水道料金がかかってしまう。雨水を一生懸命使っても結局は費用がゼロになるわけじゃない。下水道の負担金がかかるっていうんで、やっぱりメリットがないので、なかなかやろうという人は出てこないし、溜めるところで止まっているんじゃないのかなとか。 　利用まで考えた雨水利用とか、そこをもうちょっと下水道局とか、あるいは東京都になるので区とは違うとは思うが、墨田区がやはり雨水先進ということで、その辺のインセンティブっていうところを、もうちょっと一緒になって、今まである路地尊を作った団体であるとか、新しい溜めるという動き、利用しようという動きと連動して、もうちょっと進めていただけたらなと思う。 　あとは元々その始まった水害に対しての備えということでやっているが、実際には雨が来るときに溜まっているとそれ以上は溜まらない。水害のときに、本当に役に立つのかっていうのと、実はどうなんだろうねというところは実際ある。だけども、それは実はあまり突っ込まれてないというか解明されていなくて、本当に役に立つようにするためには、ダムと同じ考えなので、ダムって大雨来るときには放流する。その放流するっていうことが必要。地面よりも高い位置にタンクを置いて、電磁弁とかを各雨水タンクにつけて、信号を受けたら一斉に排出するってことなると仮想の大きいダムを作ることが、実際は可能かと思う。そういったことを、もうちょっと、一つひとつだとどうしても広がらないが、もうちょっと下水道局とか、全体の雨水タンクを管理されている墨田区とか、そういったところでタスクを解決するような会議とか、そういったものを立ち上げていただいて、もっと進められれば、いい結果に繋がるのではないのかなというふうに思う。 （岸委員） 　私は道路のことをお話したいと思う。北部と南部でだいぶ条件は違うが、私は南

	部に住んでいるため南部のことをお話したい。例えば区役所通りを整備したときに、道路が広すぎるというご意見が区民の方から出て、車道を狭くして、歩道を広くとって、自転車のスペースをそこのところに作ったと、そういう例があって、今の時代もう道路を広げようとかそういう時代ではなくなっていると思う。北斎通りも 22 メートルの幅員があるが、ガードレールがない。これは多分珍しいっていうか、それだけ車の通行量が多少制限されている。現在、京葉道路の拡幅をやっているが、そんなに道路を広げなくてもいいんじゃないのとか、今ある道路を、例えば街路樹を考えるとか、自転車のスペースを考えるとか、行動を考えるとか、そういったことをちょっと何か取り組んでもいいのではないかという気はしている。 （須藤委員） 　南部の方はそういうふうに考えるが、北部の方は道路が基本的に狭い。だから、景観的にはおそらく道路が広くて歩道が広いのはうらやましいなという感じがする。先ほども水辺のところで言ったが、昔はすごく水辺が多かった。北部と南部の境にも 3 メートルないくらいの川があって、南部は震災で燃えて碁盤の目のように綺麗になったが、北部の方は燃えなかったから木密地域が多い。特に道路が狭いため、火事が起きたら大変だっていうことで、いろんな方法を考えて、天水樽もそういう意味で、おそらく作られた。それと景観的にも、あの狭い道路に花を植えて、そこに天水樽から水を出して、北部の路地裏に入ると狭い花壇があってすごく綺麗で、そういうところに今学生さんなどが来て、写真を撮るなどしている。 　それから鳩の街通り商店街っていうのが北部にある。そこは昔で言う遊郭があったところだが、そこはほとんど長屋である。ところが今、コンビニやスーパーがどんどんできて、ほとんど営業しているところはなく、空き家が目立っているため、学生などが、そこを安く借りてそこで店を出したり、落語のやるお店などを作ったり割と流行っている。その感じで見ると古いところも必要なのかなと。どんどん新しくするばかりじゃなくて、古いところを有効利用して、景観的にも、古いのと新しいのがあった方がいいのかなと思う。 （杉山委員） 　私は手短に。墨田区はプラスチックのゴミを収集するようになったが、これは非常に素晴らしいことだと思う。燃えるゴミが今までの 3 分の 1 以下になり、なんでもうちょっと早くやらなかったのかなという感じがする。本当にプラスチックを資源ゴミにしたっていうことは良かったと感じていて、今後とも進めていただければと思っている。 （真鍋委員） 　この夏も猛暑日や台風の発生などがあり、地球温暖化対策を緊急でやらなきゃいけないと考えている。その中でも墨田区はプラごみの分別を初めて力を入れているなと感じている。最初は正直、プラごみを分けるのは面倒くさいと思っていたが、実際にやると思ったより苦ではないし、プラごみがこんなに多いということ、そしてこれを今まで燃やしていたんだと改めて気が付くきっかけとなって良かったと思う。

	それでもやっぱり区民が協力しないと、区だけで頑張っても意味がないので、区民が環境をもっと守るという意識を持ってほしいから、そこをうまく区が誘導できないかなと思う。また子どもへの環境に対する教育も必要だと考える。例えば、資料で二酸化炭素の排出量や燃やすゴミの量とか出しているため、それをもっと周知して、数値目標があると区民も環境問題に関心を持つのではないかと考える。現在、墨田区は SDGs 未来都市になっているため、今後、区民と一丸となって、墨田が環境先進都市として、他の自治体をリードして環境問題解決のためのリーダーになってほしいというふうに考える。 （木村委員） まず景観のところで、すみだらしさの江戸情緒を残したいということを１点付け加えたい。例えばさっきの緑化においても、例えば駅に江戸っぽい草木を植えていくみたいな方針があるといいなと思う。 環境について、私は再エネの電力小売りの会社に勤めていたが、まず脱炭素について言うと、実は北海道と九州って、もう太陽光をバリバリやっちゃったので、昼間の電力はタダで、実は太陽光は日本の中では足りている。しかし東京電力の管轄内では太陽光が足りてないため、家庭で太陽光パネルをやろうと言っているが、ちょっとそれだと寂しいなと思ったので、テーマとしては地域内の資源の自給率を高めるっていうことをやっていくといいかなと思う。目的としては防災。例えばこの前の能登半島の災害であったりとか札幌のブラックアウトが起きたときとかも、電力っていろんなところからかき集めないと動かないので止まってしまうが、地域内で太陽光だったりとか、いろんなエネルギーの自給率が高めていくと防災に繋がるかなと。SIC には WOTA っていう能登半島地震の支援をしたスタートアップ企業もあるし、そういうポテンシャルが高いかなと思う。 あと地産地商をやろうって前も話をしていたが、それも地域内資源の自給率を高めることに繋がるかなと。また、リサイクルが町工場の活用にも繋がっていくのではないかと思う。 労働環境という意味で、結構いろんなところで人手不足が発生していると聞いた。例えば以前、バスの交通は南北不便という話を議員の人としたら、バスの運転手が足りないからなかなか難しいって話を聞き、確かにと思った。単純な道路だったら、自動運転を地域で推進していくことで、AI とかそういうのを活用して人手不足を賄っていくというのをやっていくといいかなと思う。 （上野部会長） それでは、本日の皆さんの発言でちょっと気になったキーワード等があったら、事務局の方でまとめていただくということで今日は終わりにさせていただく。 （事務局） 今回の議論の中で気になったところをいくつかまとめさせていただく。 まず水辺の活用として、川沿いの歩道を健康促進などに活用できないかというお話や、多様な世代が気軽に行ける場所が整備できるといいのではないかというお話をいただいた。また景観という視点では、身近な景観や、景観のハードルを小さく

	できないかというお話、あとは農園を作ることなどを通して子どもの教育の場所にしていくなどのお話をいただいた。 　続いて環境問題については、水を溜めるだけではなくその先の利用するところまで考えた雨水の活用や、雨水の文化をもっと育てていくというお話があった。またクーリングシェルターなどを増やしていくことによってコミュニケーションも増えていくというお話をいただいた。また今年から進めているプラスチック回収の取組が素晴らしいので進めていただきたいといったお話をいただいた。雑駁だが以上となる。 （上野部会長） 　最後に次回以降のスケジュールについてのお話をいただいて終わりにする。 （事務局） 　今お話させていただいた重要なキーワードについて、整理をさせていただき、まちの将来像も含めてまとめさせていただく。次回は 10 月 28 日の月曜日、午後 7 時から墨田区役所 13 階の 131 会議室で開催させていただく。 （上野部会長） 　以上で第 3 回の部会を終了する。 　解散
所　　管　　課	企画経営室政策担当（内線３７２２）